令和6年度第1回練馬区文化財保護審議会会議録

- ◆ 開催日時
令和6年10月23日（水）午前10時～正午
- ◆ 開催場所
練馬区立生涯学習センター 第2教室
- ◆ 出席者
出席委員5名（会長ほか4名）
区出席者5名（教育長ほか職員4名）
- ◆ 議事
1 諮問
2 審議
令和6年度指定文化財について
令和6年度登録文化財の解除について
- ◆ 報告事項
1 令和5年度登録文化財の経過報告
2 令和6年度文化財関連事業計画
- ◆ 公開可否
原則公開（傍聴人：なし）
- ◆ 配付資料
資料 1-1 令和5年度登録文化財関係（練馬区教育委員会告示第8号：写）
資料 1-2 令和5年度登録文化財関係（「ねりま区報」令和6年3月21日号：写）
資料 1-3 令和5年度登録文化財関係（「ねりまの文化財」第114号）
資料 2 令和6年度文化財関連事業計画
- ◆ 事務局
練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課 伝統文化係
TEL 03-5984-2442

会議の要旨

<会長> 開会の挨拶

<事務局> 会議の成立について報告、会議の原則公開について（個人情報に関する内容を除く）。

<教育長> 諮問

令和6年度練馬区指定・登録文化財について、練馬区文化財保護条例に基づき、下記のとおり諮問します。令和6年10月23日 練馬区教育委員会

「文化財を指定することについて」1件、「登録文化財を解除することについて」1件、内容は別紙のとおりです。

<会長>

それでは、次第2「審議」に入ります。事務局から説明をお願いします。

<事務局>

本年度の諮問につきましては、指定文化財が1件と登録（解除）が1件です。案件ごとに説明をさせていただきます。

初めに、案件1文化財を指定することについて「三宝寺の山門」について説明します。お手元の諮問資料をご覧ください（資料に基づいて説明）。

平成7年度の登録文化財である「三宝寺の山門」を今回指定に上げる理由について、説明申し上げます。練馬区の文化財が220件ある中で指定文化財は49件です。登録文化財のうち指定文化財に格上げできるものは順次していくようにとのお話が、この文化財保護審議会の中でもございました。これまで緊急性の高いものを優先して登録してまいりましたが、今年度は「三宝寺の山門」を登録から指定に向けてご審議いただきたく、取り上げさせていただきました。

<会長>

この件に関してご質問等のある方は挙手をお願いします。

<委員>

平成7年度登録時の答申資料が添付されていると良いのではないのでしょうか。

<事務局>

別紙として添付しているのが当時の答申文です。登録時には現在のような詳細な調査は行っておりませんでした。

<会長>

少し整理させてください。平成7年（1995年）といえは30年前です。現在の審議会委員で、その当時から委員だった方は一人もいません。今おっしゃったことにはいろいろな意味があると思いますが、30年前の審議の過程がわかるような資料があれば便利ではないかということだと思います。

もう一つ、私からこうしたらいいのではと思うことがあります。30年前には詳しい報告書がないまま登録文化財にしたわけですが、今回は今年の9月に報告書を出しています。この報告書によって、「文化財の概要」を上書きすることができると思います。

<事務局>

ここ数年の文化財保護審議会では、「文化財の概要」と共に「説明書」を作成し、調査の詳細等について整理を行いながら、答申として返していくという検討の状況がありました。今回の諮問にあたり、平成7年度はこのような形で答申がなされて登録文化財になっていたということをお示しするために、30年前のものではありますが、当時の答申文を添付させていただきました。一方で、建造物を見ていただいた後に、最終的な答申文に付す説明書の内容については、これからご審議をいただきたいと考えております。また、今回の調査報告書を活用させていただきながら、説明書を作成していきたいと考えております。

<会長>

ご説明はわかるのですが、平成7年度の登録時の答申文に対し、今回どのような調査を行って、その結果どういった価値が明らかになったという記述が、諮問にあたって必要なのではないのでしょうか。

<事務局>

近年、初めての登録に際しては詳しい説明書を添付しておりますが、登録文化財を指定とする場合には、前回、令和2年度に「丸山東遺跡出土の片口土器」についてご審議いただいた際も、登録当時の答申文に資料を添付する形で行いました。今回も同じ方法を踏襲しました。

<会長>

それはケースバイケースだと思います。30年経って、以前はなかった報告書が今回新たに上がってきたわけです。近世後期の建築物となると、この30年前と今ではずいぶん取り扱いも変わり、調査方法や知見も増えているのではないかと思います。研究状況はいかがですが。

<委員>

今の議論はそのとおりで、どれだけ深く調査しているかによって、内容は変わってきます。登録時の答申文は置いておいて、今回の調査を基に文章を作ってお諮りになるのが良いのではないかと思います。

<会長>

おっしゃるとおり、この諮問文に補足する形で、次回、あるいは次々回に文章を作成していただいて、その時には今回の新しい報告書の抜粋などもご紹介いただければと思います。既に登録されている文化財に対し、近年の研究の進展、今回の調査を踏まえて、指定文化財としての価値があることがよくわかったからというように作成いただければ、宜しいのではないかと思います。

登録文化財を指定にするという時、数年の間隔でしたらそれほど変わらないかと思いますので、指定にすべき事情を書けば宜しいかと思います。建築学は30年ですずいぶん進歩があったと思います。また、前任の先生とお考えが異なる点もあるかと思います。

どうでしょうか。内容について今日はここまでにしておいて、次回の現地見学を経て、3回目の会議で検討することにしましょうか。

<事務局>

私の方で説明不足だった点を少し補足させてください。平成7年度の答申文には記載されておりませんが、昭和28年の修復時に、江戸時代の文政10年という棟札が発見されたという記述が、『三寶寺 六百年の歴史と文物』にあります。東京都教育委員会の『東京都の近世社寺建築』という1989年の調査報告書にも記載があります。指定にあたって年代を決定できることは重要だと考えます。

今回の調査では、屋根の内部にカメラを入れて棟札の写真を撮影しています。棟札らしきものが二つ並んでいる状況が確認できました。

<委員>

内視鏡のようなものでカメラを突っ込んでいくと、棟札らしく見えるものはあったのですが、文字までは確認できませんでした。

<会長>

東京都の報告書に棟札の文字の翻刻はあるのですか。

<委員>

天井部分に隙間がないので、おそらく屋根を修理した際に確認したものではないかと思えます。棟札を取り外して蔵で保管している、といった可能性もあると思うのですが、お詳しい住職が亡くなられたのが残念です。

<会長>

今回の指定について、今の住職にもご説明されているのですね。

<事務局>

はい、ご説明申し上げます。先代がお詳しくだったので、もう少し早くお話を伺えばというところはあります。三寶寺では、詳しい歴史が書いてある本を2冊出されていますので、参考にさせていただきます。

<会長>

その2冊の本に、棟札のことは書かれていますか。

<事務局>

詳しく書かれています。

<会長>

東京都教育委員会の『東京都の近世社寺建築』は、この場にありますか。

<事務局>

今、この場にはありません。

<会長>

それでは、次回会議の際に資料としてご提示ください。

案件1につきましては、少し手間がかかるかもしれませんが、できるだけ次回の現地見学の前までに資料をご準備いただければありがたく存じます。

<委員>

建築や彫刻に関わった方の名前は残っていませんか。

<委員>

残念ながらありません。彫刻の裏に作者名が入っていたりする場合があるのですが、あるいは発注書のようなものが残っていればよいのですが、今のところは見つかっていません。

もう一つよろしいでしょうか。この山門が御成門だったということが『東京都の近世社寺建築』に書かれています。『三宝寺誌』にも書かれていますのでどうも本当のような感じですが、証拠がありません。名称について「三宝寺の山門」としていますが、あるいは「御成門」とした方がよいものか、ご審議いただければと思います。

江戸後期のものとして装飾的で立派である、あるいは屋根の垂木と母屋以外は檜で造られている。一般的な門であれば、総檜造りは認められなかった時代ですので、その点においては御成門として問題ないと思っています。

<事務局>

『三宝寺誌』に、三代将軍徳川家光が狩りの際に立ち寄ったことが書かれています。

<会長>

建築の案件は美術工芸品などに比べて、物も大きいし複雑です。3回目の会議で審議を終えることができれば4回目の会議で答申となりますが、今の時点で申し上げるのはちょっとおかしいかもしれませんが、少し忙しい気がしないでもありません。12月、1月になってから方針を変更できるのでしたら良いですが、前もって考えておく必要があるということでしたら、もう1年かけてもいいのではないかという気がします。先生方いかがですか。

<委員>

私の方では、今年度に間に合わせるということで、夏の暑い時期に調査したものですから。

<事務局>

今回、2回目、3回目の会議の間隔が、それぞれ1ヶ月ほどありますので、説明書などご審議のための素材の提示をなるべくスピーディーに行うことを、まずは目指すということで進めていきたいと考えています。

<会長>

わかりました。そのようにお願いします。

大変難しい問題で、都道府県も市町村でもそうですが、ありていに申せば、そちらのご当局には考古の専門の方はいらっしゃるけれども、それ以外の方はいらっしゃらない。となると、諮問文といっても、誰が書いているのかとなるわけです。県によっては、当局は物理的な文章を書くだけで、委員の1人が参考の説明文というものを1600字位で書かされて、それを審議会の時に読み上げるところもあります。しかし今の形を続けていくのでしたら、建築専門の方がいればこのスピードでできますが、そうでなければ先生から教えていただかなければ書けない、大変時間がかかってしまうものだというのを、区としてもご理解いただきたく思います。

では、これで進めていきましょう。よろしいでしょうか。

<事務局>

先ほどのお話に関連して、事務局から「御成門」の定義について確認させてください。

江戸前期に家光が狩りの際に立ち寄った形跡があるという一方で、今回の調査報告では江戸後期の建築ということですが。過去に将軍が御成りになったという状況があれば、それをもって御成門というのか、お伺いできればと思います。

<委員>

家光が狩りの際に立ち寄ったというのは『三宝寺誌』にも書かれていますし、金乗院にも家光が御成りになったという伝承があります。ちょっとあやしいところはあるようですが、信憑性があるのは、この門が御成門として造られているということです。江戸時代の絵をみると、この門はくぐってはいけないということで、脇に通用門が描かれています。門が二つ並んでいて、一般の人は通用門をくぐったという話が伝わっています。つまり、古くから御成門として認知されていた。力のある人が、御成門としてこの門を造った、ということだと思います。

<事務局>

先ほど櫓を使っているというお話もありましたが、その辺りも含めて、御成門として作られた、ということでしょうか。

<委員>

実際に将軍が御成りにならなくても、御成り用として造ることで、御成門となるわけです。仙台の伊達家の瑞巖寺には行幸の間がありますが、天皇が行ったことはありません。先ほどの、江戸時代は三宝寺山門を一般の人が通ることができなかったというのも、有力なお話ではないかと思います。

<委員>

将軍になる前の綱吉は、鷹狩りの際に金乗院に立ち寄っていますから、家光も同様の可能性はあると思います。

<会長>

今回は現地確認ですが、この状態で行っても、ただ門を下から見上げるだけになってしまいます。現地で立っているところで資料を渡されて、もし雨が降ったりしたら、よくわからないまま12月に入ってしまうことになりかねません。お寺でちょっと座るところだけでもお借りして、最初に資料の説明をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

<事務局>

資料を読んでいただいた上で、実際に見るという流れの方が、よく理解いただけるかと思いますので、検討してみます。説明書を準備できるよう努力します。

<会長>

それでは次の案件に移りたいと思います。案件2についてよろしく願いいたします。

<事務局>

案件2登録文化財を解除することについて「金乗院の山門」について説明します。お手元の諮問資料をご覧ください（資料に基づいて説明）。

金乗院のご住職より、門を建て替えたいということで、4月にご相談がありました。6月に私が現地を確認し、貴重な文化財という説明を申し上げました。建築がご専門の審議会委員の先生も現地へ2回行ってくださり、修復の提案など差し上げたのですが、檀家の総意ということで意思が固く、登録解除の申請書を頂戴しました。

練馬区では、文化財保護条例第7条第2項に「所有者から当該文化財の登録の解除の申出があったときは、その登録を解除しなければならない。」という規定がございます。今回、所有者から登録解除の申請書をお受けしましたので、審議会へかけさせていただきます。

<会長>

ご質問のある方はお願いします。

練馬区文化財保護条例で、指定文化財の解除の場合は、どのようになっていますか。同様に、所有者からの申出で解除となるのでしょうか。

<事務局>

第8条第2項に「指定文化財について準用する」とあります。

所有者からの申出で指定解除する例は、おそらく他の区ではないと思います。文化財を指定するということや、そもそもの文化財の意義について、当然残しておくべきものというところを前提としてご議論をいただいている中で、他の自治体の条例を検討研究する必要があると思っています。

指定文化財の建造物を修繕する場合には、経費の半分を補助するといった経済的な支援や、文化財に対する理解を深めていただくことを含めて、区として対応させていただいております。

その関連性と実際の運用について、他の自治体の条文と照らし合わせて、同じような条文があるところが指定解除の状況のときにどう対応したかといった事例を含めて、実際に所有者から指定解除の申請があった場合にどういった対応をしていくべきかを、区として研究させていただきたいと考えています。

<会長>

現在の区の条例では、指定文化財も登録文化財と同様に、所有者からの申出により解除すると読み取れるということですね。

<事務局>

準用するということです。

<会長>

指定文化財を保存修理する場合は、区は経費の2分の1を補助することも、条文で決まっているということですね。登録文化財についてはどうなっていますか。

<事務局>

保存活用を奨励するという意味で、奨励金を支給しています。建造物の場合は、年額3万円です。練馬区では、登録文化財の中から指定するという考え方ですので、奨励金は指定文化財にも支給されます。

<委員>

文化財を囲い込むために、登録文化財制度を作った経緯があります。どこまでできるかということと関係なく進められてきた施策ですから、仕方ないでしょう。

<会長>

今回の案件は、登録文化財の目的と実際の在り方について、一石を投じるものだと思います。

さて、今回は解除ということで、先生方よろしいでしょうか。

以上でよろしければ、審議事項を終了します。

続きまして、報告事項について事務局からお願いします。

<事務局>

報告事項 1 令和 5 年度指定・登録文化財の経過報告、報告事項 2 令和 6 年度文化財関連事業計画について説明します（資料に基づいて説明）。

<会長>

ご質問はございますか。

本日の審議に関して、資料 2 にある登録文化財奨励金について確認させてください。奨励金を受け取るためには申請が必要なのですか。

<事務局>

申請書をいただいて毎年交付をしています。

<会長>

何%位の方が提出しているのですか。

<事務局>

わずかですが、辞退をなさる方もいらっしゃいます。

<会長>

こちらから案内を送らず、必要な方が申請する形でも良いのではないのでしょうか。自分の家の門や玄関に対し、毎年 3 万円というのはいかがでしょうか。

<事務局>

登録文化財の意義の話に戻りますが、建造物の場合、実費と奨励金の差異がとても大きくなってしまふ面があります。例えば古文書でしたら、奨励金は登録 1 件につき 1 万円です。

<会長>

国の場合、国宝でも重要文化財でも、指定したからといって、お金を差上げることは一切していません。

建造物とお部屋の中にある小さな仏像一体が、それぞれ 3 万円と 1 万円ということではなかなか修理もできないでしょう。

<事務局>

他の自治体でも同様の制度設計をしているところもあれば、奨励金の制度がない自治体もあったと思います。

<会長>

登録文化財の場合、区が立札を立てることはしていますか。

<事務局>

説明板を設置しています。

<会長>

「金乗院の山門」にも説明板が設置されているのですか。登録解除にあわせて撤去するのですか。

<事務局>

金乗院では他にも文化財をお持ちですので、一括した説明板を設置しています。修正が必要になります。

<会長>

ありがとうございます。その他事項はありますか。

<事務局> 次回の開催連絡

<会長>

本日はこれにて閉会いたします。ご協力ありがとうございました。